

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年4月7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676100169
法人名	有限会社 ふれあい企画
事業所名	グループホーム ふれあい(てんとう虫)
所在地	鹿児島県霧島市隼人町小浜3070 (電話) 0995-43-0716
自己評価作成日	平成23年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

始良市の町、錦江湾と桜島が一望できる高台にあり、春には桜、秋にはイチョウや紅葉が色鮮やかな色を見せている。東屋では地域の人が利用したりと自然環境に恵まれたホームである。管理者・職員は朝礼時、理念(個人の尊重と寄り添う介護の実践・家族との絆を大切に、地域づくりを推進する)、私たちの行動指針、コンプライアンスルールを念頭に置き、日々唱和し、ケアにあたっている。そしてホームの一番大きい行事では、花見・夏祭りを開催し、利用者、家族、職員、地域住民合わせ約140名が歌を歌ったり、踊ったりと楽しいひと時を過ごしている。日常生活でも、ホーム園内に畑があり、利用者と一緒に野菜や花を植え、収穫し楽しんでいる。月に一度、理学療法士がホームに来られ、利用者が安全で安心した生活が送れる様リハビリにも取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaken-shakyo.jp/kohyo
-------------	-------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成23年4月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	施設理念「個人の尊重と寄り添う介護の実践・家族との絆を大切にし地域作りを推進する」ユニット理念「あなたの気持により添い考え、共に行動します」入居者の思いを優先し、安心して生活できるよう支援している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等（初午祭・夏祭り・棒踊り・文化祭）に参加したり、ホームの行事（花見・夏祭り）に参加してもらうなどの交流をしている。一般の方にもトイレの提供をしたり、休憩所等を気軽に使ってもらっている		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の民生委員や公民館長と連携をとり介護相談を行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開かれる運営推進会議のなかで、行事・取り組み・ヒヤリ・事故等について報告している。参加者からの意見を介護の現場に生かすようにしている。またその時々テーマを決めて意見発表等を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市主催の健康福祉祭りや認知症研修会に参加し困った事例について相談している。年2回の介護相談員を受け入れ、サービスの向上に努めている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束マニュアルを基に職員研修やユニットのミーティングで勉強している。入居者の外にでたい気持ち等を尊重し、他の仕事はおいて一緒に出る様にしてている。夜間においては1人態勢の為玄関は施錠している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルに基づき全体会やミーティング等で繰り返し学んでいる。入居者の全身状態の観察及び表情や言動に変化はないか注意深く観察している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護については施設外研修やホームの勉強会等で学ぶ機会を設けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>時間をとり、納得いくまで説明をしている。事業所理念や利用料金・退所時の取り決め等について説明し同意を得ている</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>年に2回派遣されている介護相談員にじかに入居者の悩み等をきいてもらっている。年2回の家族会や面会時に家族からの意見や要望等を聞き、介護に生かすように取り組んでいる。意見箱はあるが利用されていない</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回の管理者会議や代表者会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。管理者はユニットミーティングにも参加し職員とのコミュニケーションを図っている</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の資格取得にむけた支援をおこない、所得後は本人の意向を重視しながら、職場内でいかなる労働条件作りに努めている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人研修を1～3か月かけて行っている。事業所内での研修では事前に何を学びたいかのアンケートをとり、そのテーマに沿って介護技術から応用まで、広範囲の研修を行っている</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>始良伊佐地区のグループホーム協議会に加入している。定期的に研修会に参加し、交流している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問し、本人との信頼関係を気づくようにしている。本人の身体状況を把握した上で、直接不安や要望等を聞きだしこれからの介護に生かすようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族との面談を行い、家族の悩みや、これからの期待する事等を時間をかけて聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの開始段階で、まず必要なサービスは何であるかを見極めて適切な介護計画を作成するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	大家族で過ごしていることを前提にしており、共に生活する仲間としてとらえている。一緒に家事に取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月のお便り等で入居者の生活状態を伝える様にしている。誕生会や行事等には家族にも参加していただき共に支え合う関係を作っている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠足やドライブ等を利用して入居者の思い出を引き出せるような場所に行ったり、友人等の面会の支援をしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格を把握したうえで、入居者同士の関係が結びやすいような席の位置に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時は次のサービス事業所等に介護の情報を提供し、継続した支援が提供される様に支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの生活歴や在宅時の生活状況等を把握し、なるべくその意向に添えるよう努力している。出来ない場合でもそれに近い方法がとれないかを考えて工夫している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族やケアマネから情報を取りよせており、なるべく継続した支援が出来る様に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者それぞれにあった1日の過ごし方を把握し、理解している。その人らしい活動が出来る様に支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティング等を利用し全員参加の中でモニタリングを行っている。モニタリングの結果と家族・本人の希望をとりいれてケアプランを作っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録にニーズに沿った内容の記録を残すようにしている。普段と違う言動や行動がみられた場合や新しい入居者については詳しく記録に残し情報を共有している</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人の希望にあわせて、ドライブや近くの無人販売所で野菜を買う等の支援を行っている。家族との外食や一緒に散歩などの働きかけを行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>入居者が安心して生活できるように地域の民生委員や消防署とも連携を取り合っている</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>月1回の訪問診療は事業所の協力医が行っている。その他必要に応じて家族の希望する専門医等受診の支援を行っている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常の中でのけがや体調の変化等に気付いた職員は直ちに看護職員に連絡し適切な対応がとれるようにしている</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院にあたっては家族やDrとの連携を取り合い、なるべく早く退院できるように支援している。入院期間中にも定期的に訪問し病状の把握に努めている</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応しうる最大のケアについて説明を行っている</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時のマニュアルに基づいて年に1回消防署立会いのもと、応急手当の勉強会をしている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年3回の避難訓練のうち2回は消防署立会があった。避難経路の確認や消火器の使い方、通報装置の使い方等の訓練をしている。地域住民は高齢のため協力が難しい。23年3月スプリンクラーが設置された。緊急時には始良市の協力も得られる様になった。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の生活歴を把握したうえで、それぞれの尊厳やプライバシーを傷つけないように言葉かけや対応に気をつけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自分の思いを口に出しやすくなるような声かけを工夫している。また自己決定が出来る機会を多く取り入れる様に支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の表情を読み取り、不安を持続させることのない様に支援している。業務は空いた時間にずらすようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の好む髪型やおしゃれが出来るように支援している。入浴後の乳液やツバキ油等で気分を明るくしたり、そのひとに合った支援を行っている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分たちで決める献立の前日はそれぞれに何が食べたいかを聞きだして、楽しみな食事になる様支援している。テーブル拭きやお茶入れ・ご飯を自分でつぐ等してもらっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人ごとに食事量・水分摂取量が分かる様に表を作成している。夕食後にはコーヒーや紅茶など好きな飲み物を提供している。月1回の体重測定で健康状態の把握をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にそれぞれに応じた方法での口腔ケアを行っている。週1回はポリデントによる消毒をしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の排泄リズムを把握し、各人ごとに声かけや排泄介助を行っている。トイレにて排泄が出来るように全職員で取り組んでいる		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れたり、散歩や体操など身体を動かす機会をつくっている。トイレ排泄時には便意を促す声かけや腹部マッサージをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週2回の入浴、順番等は入居者の気分や体調にあわせて自由に変えられる様にしている。入浴を嫌がる時は時間をずらしたり、人を変えたりあらゆる工夫を行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を重視しており、夜間の安眠に繋がるよう支援している。しかしながら高齢でもある為1~2時間の昼寝も日課に取り入れている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに処方箋を綴じてあり職員がいつでも見れるようになっている。服用時は本人に手渡し服用できたかの確認、又誤薬を防ぐため投薬介助者を決めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまで外仕事をしていた人には散歩や草取り、主婦だった人には家事一般をして頂く等、ここでの生活に生きがいをもって頂くように支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の希望に合わせて散歩等を日常的に行っている。遠足や地域の祭りなどに出かけたり、家族との外出が出来る様調整している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の希望により少額のお金を職員側で預かっている方もおり、その中から本人の希望する物品を購入している。入居者本人はお金を持っていない</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族との電話を希望する入居者には職員が付き添い取り次いでいる。書かれた手紙は職員が投函している</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>散歩時に積んできた季節の草花を常時飾っている。あかりや音・光に対してはその都度こまめに調節を行っている</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>それぞれが好きな場所で過ごせるように、3か所にソファが置いてあり、又畳みの部屋も使ってもらっている。自室を好む方にはそっと見守りを行っている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた椅子や小物入れ、家族の写真など本人が安心できるものを置いてある		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールや廊下には手すりがついている。トイレや風呂の位置がわかるよう大きく表示してある。自室の分らない方には目印になるものを貼ったりつけたりしている		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない